



農芸談話室開設

読者の皆様からの御要望もあつて今月より「牧草と園芸に関すること」を主体とした農芸相談欄を設けることになりました。何卒心易い御氣持で談話室へ御相談下さい。★質問は簡単にわかり易くハガキに記して下さい。

★急を要する場合は直接御回答申し上げますが、本欄を利用してお答えすることを原則といたします。

★雪たね同友会員をはじめ、読者各位の御質問を歓迎いたします。

荒山の草地化はどうしたらよいか

【問】現在小さな赤松その他雑木が生えておる裏の瘠山三反歩を放牧地または採草地として改良したいのですが、ラデノクロパー等を播いて直ぐよい牧草地になるでしょうか。また飼料木を植えたいとも思いますが改良方法と飼料木について御教え下さい。(長野県 山木義雄)

【答】御問い合わせのような低位利用地の改善は現下極めて重要な問題であろうと思ひます。御意見のように最初からクロパー類を播種することは無理でしょう。先ず雑木を伐材して飼料木を植えその間にケントッキー三一フェスクのように氣候土壤を選ばず瘠薄地でもよく旺盛な生育をする

牧草を植えることがよいと思ひます。なおある程度土地が改良されてから後であればケントッキー三一フェスクにラデノクロパー、アルサイククロパー等を混播することによいでしょう。尚れにしてもわが国の山地、荒地は石灰と燐酸の欠乏がはなはだしいので牧草の播種にさいしてこれらのものを施用することが肝要です。なおケントッキー三一フェスクまたラデノクロパー等は既耕地で苗を育ててこれを山地に株分けすることは労力を要するようで極めて手取り早い効果的な方法です。ケントッキー三一フェスクは一株の分蘖が四〇〜一〇〇本にも達するもので再生力が旺盛なのでたちまち他の雑草を圧倒すると信じます。

次に飼料木についてはトゲナシアカシヤ、イタチハギ等が最適のようです。トゲナシアカシヤは在来のアカシヤと似ているがトゲがなく生長力旺盛で土地を選ばず、二十年生の松がステッキぐらゐしか伸びない瘠地でも、アカシヤはケングン生長しております。青島種は高性、葉は大型、英国種は半喬木、パラソル型の樹姿となり、葉は小さいが、数多く採草量は青島種より多い。根部の根瘤菌により窒素を固定するので地力の向上には大いに役立ち、葉は家畜の飼料として栄養価が高い。植付本数は反当五〇〜八〇本。

イタチハギは葎科の落葉灌木でハギに類似し葉はアカシヤに似ている。砂地や瘠地にもよく育ち、禿山、農地の緑化、地力の培養には最良のもので年々地際より刈り取ると一株から二〇〜三〇本の若枝が八〜一〇尺位真直ぐに伸長するので枝葉を飼料

とする他枝葉は手竹代用その他用途が極めて広い。栽植本数はイタチハギのみの場合で坪当五〜六本であるがトゲナシアカシヤ、牧草などとの混植の場合は適宜に減ずればよい。

以上のような飼料木を栽植して地力の向上、土性の改良を図りつつ良好な牧草地に改良して行くことを御奨めいたします。雪たね同友会員の広島県中川氏等は瘠薄林地にトゲナシアカシヤを植えて立派に成功しています。

水田の畦に牧草を作りたい

【問】私の家では只今耕地整理をしておりますが田の畦が大きく約一米位もあり、その急斜面に牧草を生やしたいと考えておりますが、牧草の種類と播種または植え方を御教え下さい。

【答】まことに適切な御問い合わせと存じます。わが国三百万町歩の水田の五〜七％位は畦畔でしょう。これらが全部牧草で覆われたならば日本の乳牛は現在の二倍位になつても机上の計算では良い筈です。あなたの場合只今新しく畦を作つておられるようですから畦に石灰と燐酸を施し、これにラデノクロパー、赤クロパー、アルサイククロパー(これは特に耐湿性が極めて強く耐酸性も強いクロパーです)を播種して板片で軽く畦面を打つ程度でよい。一般に牧草種子は小粒であり覆土が厚いといちじるしく発芽を妨げるので注意しなければなりません。なおいね科のオーチャードグラス、ケントッキーブリエーグラス、ペレニアライグラス、ブROOMグラス等を混播することによいと思ひますがラデノク

ロパーの単播のもの、混播のもの等各種試みられることも面白いでしょう。

なお古い畦の場合は畦塗りの際その上に播種するか、または古い畦の雑草株を削り取つたところに肥料を施して播種することによいでしょう。さらにラデノクロパーの場合は苗植するのも手数がかかるようであるので効率的な方法です。

ルーサンとの混播牧草

【問】小生酪農の基礎を作り上げたいと思つておるのですがアルファルファ(ルーサン)の混播相手としてはどんな牧草がよいでしょう。(岩手県 古里勝彦)

【答】ルーサンは世界各国では赤クロパーとともに最も古くから栽培利用されて来たものですが、わが国では普及が遅れ、漸く近年になつて急激に利用されはじめたものであります。豊富な収量と高い飼料価値は真に牧草の王といえましょう。

何れの牧草も他の牧草と混播することが相互に短を補ひ地積を有効に利用するとともに飼料配合の面からも有利なので望ましいことでルーサンに対してはいね科のオーチャードグラス、ブROOMグラス、メドウフェスクなどが良い。混播割合は目的と土地により異なるが、二、三の例を上げてみましょう。

なおルーサンは酸性地を極端にきらひ、耐旱性強く乾燥地に合適するものである。

永年採草地を目的とする場合

- 例一 ルーサン三听、スイートクロパー一听、ブROOMグラス四听
- 例二 ルーサン二听、バースフットレフォイル一听、トールオートグラス四听、

ケンクッキー三二フェスク一

例三 ルーサン二听、赤クロバー一・五听、ケンクッキーブリュウグラス一、ブ  
ロームグラス二听、オーチャードグラス二  
听

放牧地を目的とする場合

例一 ルーサン二听、ラデノクロバー、  
アルサイククロバー、赤クロバー各〇・五  
听、ケンクッキーブリュウグラス二听、レ  
ッドトップ、オーチャード、チモシー各一  
听

例二 ルーサン二听、ラデノクロバー、  
パースフットレフォイル〇・五听、プロ  
ームグラス三听、チュウイングフェスク、  
シープフェスク各一

右のように採草地、放牧地ともに各種の  
ものを混播することがよく特に放牧地の場  
合は草の種類が多いことが必要です。これ  
は牧草は一般作物と異なつて個体を利用す  
るものでなく集団を利用するものでありま  
すので、一定地積に生存する総体の量が多  
いことが望まれるからであります。

なおルーサンをはじめ栽培する場合は  
根瘤菌を接種することが必要であります  
が、弊社では希望者に一反歩分六〇円で御  
頒ちしておりますので御利用下さい。

タマネギバエの防除

【問】 ネギ、タマネギ等を家庭菜園に植  
えるときよく生えるのですが二〜三寸に伸長  
した頃根元から折れて枯れて行きますがな  
ぜでしょう。防除法を御教示願います。

(北海道 石戸 等)

【答】 ネギ類が発芽生育の初期枯死して  
行くのは主としてタマネギバエの被害によ

るものと思われます。この蠅の幼虫すなわ

ち蛆は長葱、玉葱の葉肉または地下部に侵  
入して食害するので、やがて被害部分は腐  
敗、枯死する。普通年二回の発生をして蛹  
態で越冬する。五月中下旬から羽化し、幼  
虫の加害最盛期は六月中旬ないし七月上旬  
である。二回目の成虫は七月上、中旬頃よ  
り現われ、主として長葱に産卵し孵化した  
幼虫は食害後その根株附近の土中で蛹とな  
つて越冬する。

防除法

- (1) 五月中旬(成虫の発生初期)より十  
日毎に三回以上BHC 73%粉剤を反当り  
三畝標準で撒布すること。
- (2) 被害苗は抜き取り地下三尺程度に埋  
没して踏み固め羽化して飛び去るのを防止  
すること。
- (3) 玉葱は移植栽培を適宜按配して組入  
れ被害の回避を計ること。
- (4) 秋耕を行つて越冬蛹の斃死を計ること。

【問】 ゴボウは三年連作をきらうと申し  
ますが本当でしょうか。連作した方が岐根  
が少くなるとも書いていますがどうでしょ  
う。(北海道 小原 宏)

ゴボウの連作は悪いか

【答】 ゴボウの連作により岐根(分れ根)  
が少くなるというのは全く反対で、連作す  
ると岐根が多くなり収量が減つてまいりま  
す。岐根が多いゴボウは種子の品質系統が  
悪いように思われている向もあるがこれも  
誤りで、岐根の出る原因はネマトード(線  
虫)、ハリガネムシ、紋羽病、芯腐病などの  
害によることが多いようです。これがため

収量も減るものと考えられる。従つてゴボ

ウは努めて連作を避け、やむを得ない場合  
でも二年で止めるのがよい。この場合でも  
播種前に反当り三〇貫程度の石灰を撒布す  
ることが肥料を普通より三割位多く撒すこ  
とが必要です。なおナス、トマト、キュウ  
り、ハクサイ等のネマトードの被害の多い  
ものとの連作はさなければならぬ。

ゴボウは生育期間が非常に長く、その間  
たえず肥料分を吸収するので有機質肥料を  
多く施すとともに金肥を追肥することが必  
要です。

りんご苗の定植期と植穴の大きさ

【問】 りんご苗の定植期は秋と春とどち  
らがよいでしょうか。なお植穴の大きさはど  
の位が適当でしょうか。

(北海道 崑山岩市)

【答】 定植は春、秋二季に行われる。秋  
植は十月下旬ないし十一月月上旬が適期で、  
翌春までに新根が発生して活動し始めるか  
ら、生育良好であるが、積雪の多い地方で  
は雪害を被り易く、雪の少ない寒地では寒害  
を受けることが多い。従つて本道において  
は、道南地帯の積雪の少ない地方の外は春植  
とするのが安全である。春植は融雪直後で  
未だ土壤中に十分水分が保有されている内  
になるべく早目に行うのがよく、発芽し始  
めたものは活動しても発育が鈍い。大体四  
月下旬が適期で遅くも五月上旬までに終る  
ことが必要である。

つぎに植穴については果樹の一生を左右  
するものであるから植付作業には全力を注  
ぐべきものである。果樹の根は土壤中に酸  
素の含有量多く、しかも含水量の多い場合

によく発達する。土壤の深耕は土壤の含空

気孔隙を増大し、有機物の施用は保水性  
を増す。そこで植穴もなるべく大きく、深  
く掘り、有機物を多用して苗木を植付ける  
がよい。青森県りんご試験場で行つた定植  
時における植穴の大小とりんと樹生育との  
関係をみよう。

大穴区 深さ二尺五寸 直径十二尺

小穴区 深さ一尺 直径二尺五寸

右の二区に二年生園光を植付け一樹に堆  
肥四貫を施用十二年間に亘つて調査した  
が、最終樹冠容積は大穴区は小穴区に比し  
四五%まきり、収量は二十一年〜二十六年  
までの合計で約一八%まきつていた。

さらに両区からそれぞれ代表樹四樹を  
選んで十二年後解体調査を行つたが、全重  
量において大穴区は小穴区に比し平均二三  
%まきり、その内容を見るに地上部重量に  
おいて二一%、地下部重量において七三%  
まきつていた。

最大樹について根部の発達状態を見る  
と、大穴区は小穴区に比し地下一尺〜二尺  
までは四・五倍、二尺〜三尺まででは八・六  
倍となつていた。これらの成績によつて見  
るに如何に植穴の大きいことが必要である  
かがわかる。試験区の土壤は洪積層に属す  
る含礫質壤土を表土とし一尺以下は礫質砂  
土の土壤で元来孔隙の多い土壤であるが、  
十二年後現在でも深耕の効果が著しいこと  
がわかつた。

以上の外各種試験もあるが、実用的には  
植穴の大きさは少くも直径六尺、深さ二・五  
〜三尺は用意すべきであり、粗大な有機物  
を一穴五十〜百貫位施したいものである。